

ガバナンス不全の中の組織風土劣化の研究

講師 井上久男氏
経済ジャーナリスト

司会 杉井 清久
㈱現代経営技術研究所 主任講師

2026年2月20日(金)
15:00~17:00

Zoomによるオンライン開催



今回は経済ジャーナリストの井上久男氏を講師にお招きします。経営トップに起因するコーポレートガバナンス不全がどのように組織風土に影響し企業行動に変調をもたらすのか。またそのようなガバナンス不全を甘受し助長する組織風土はどのように形成されるのか。

長期の時間軸で取材を継続し、日産とニデックの企業行動と組織風土の変遷を凝視し続けてきた氏のお話をうかがい、その要因の解明に努め、多くの日本企業の中にも伏在しているコーポレートガバナンス上の構造的なリスクを検討します。

- I. 経営トップの言動の制御不能が組織風土に問題を引き起こすメカニズム
- II. ケース研究
 1. 日産自動車—カルロスゴーン時代のガバナンス実態と企業風土劣化の相互作用
 2. ニデックの不正会計疑惑問題—組織風土が劣化して起こったのか、過度に強化されて起こったのか
 3. 苛酷なノルマ主義が生んだ歪みの構造
- III. カリスマ経営者のもとでガバナンスを維持する会社の条件
- IV. 講師提言:揺るぎないコーポレートガバナンスへ。自立した組織風土を築こう。

講師プロフィール
井上久男氏
(い のう え ひ さ お)

1964年生まれ。1988年九州大卒。NECを経て1992年朝日新聞社に中途入社。経済部で自動車や電機産業などを担当。2004年に独立。現在は主に企業経営や農業経営を取材し、講談社や文藝春秋社、東洋経済新報社などの各種媒体で執筆するほか、講演活動も行っている。2005年大阪市立大修士課程(社会人大学院)修了、2010年同博士課程単位取得退学。2016年4月から2025年3月まで福岡県豊前市政策アドバイザーを務めた。主な著書に『自動車会社が消える日』(文春新書)『会社に頼らないで一生働き続ける技術生涯現役40歳定年のススメ』(プレジデント社)、『メイドインジャパン驕りの代償』(NHK出版)、『トヨタ愚直なる人づくり』(ダイヤモンド社)、『トヨタ・ショック』(講談社、共編著)『サイバースパイが日本を破壊する』(ビジネス社)。



「日産VS.ゴーン」
文藝春秋
(2019/2/20)



参加申込み
QRコード